

## 牧師の息子は稀代のギャングスター 衛藤衛とモンタナ・ジョー

文・瀬戸本淳（建築家）



瀬戸本淳(せともとじゅん)

株式会社瀬戸本淳建築研究室 代表取締役

1947年神戸生まれ。一級建築士、APECアーキテクト。神戸大学工学部建築学科卒業後、1977年瀬戸本淳建築研究室を開設。以来住まいを中心にして、世良美術館、月光園、神戸文学館など、様々な建築を手がけている。神戸市建築文化賞、兵庫県さわやか街づくり賞、神戸市文化活動功労賞、兵庫県まちづくり功労表彰、姫路市都市景観賞、西宮市都市景観賞などを受賞

関西学院といえばヴァーリーズが手がけたスペシャルユニット・ショウスタイルの西宮・上ヶ原キャンパスを連想するが、かつては神戸の原田の森、いまの王子公園にあり、神戸文学館の建物はその名残だ。ここで教鞭を執っていた一人の教師が、やがてアメリカで活動の人生を送った。

彼の名は衛藤衛。明治16年（1883年）、大分県竹田で平家の流れを汲む武士の家系に誕生。小学校教員を経

て日露戦争へ従軍、帰還後に神戸で洗礼を受け、明治42年（1909年）から2年ほどは神戸一中（現在の神戸高校）に勤務していたが、「7年務めれば外国に留学できる」と誘われ関西学院へ移籍する（諸説あり）。もともと弓の心得があり、サッカーも教えたそうだ。また、「布引躬行舎」という修養團に属し、玄米を常食し、日曜日は聖書講義を聞くなど精神主義的な面もあつたと伝えられている。

大正6年（1917年）頃、衛藤は渡米する。大学設立を目指した関西学院が派遣したとも、日本政府より日系アメリカ人の実態調査を命じられたとも言われているが、カリフォルニアで日本系人の荒んだ状況に衝撃を受けアメリカにとどまるることを決意し、日本より妻と娘を呼び寄せ、教会を建て日系人の救済に尽力。太平洋戦争の時代は強制収容所に入るも、戦後はハリウッドの祈りの家の主任牧

師を勤めるなどして、平成4年（1992年）に109歳で大往生を遂げるまでアメリカで祈りを捧げ続けた。

実は衛には大正8年（1919年）に誕生した健という息子がいた。健は利発で几帳面な方短気などころもあり、10歳の頃には白人相手にしばしば喧嘩をしていました。というのも当時、ヨーロッパの日系人は「ジャップ」と蔑まれ差別の中にあり、白人から迫害を受けていた。しかし、健は自らをアメリカで生まれたアメリカ人と疑わず、差別が許せなかつたのだ。

14歳のある日、父との齟齬が爆発し健は家を出てしまう。健はジョーと名乗り、農場の季節労働者「ブランケットボーイ」と

して各地を転々としながらイカサマ博打の腕を磨く。第二次世界大戦が勃発すると米軍の日系二世部隊に従軍、帰還後はニューヨークへ渡り、イカサマを見破られない完璧なカード捌きがイタリア系マフィアに認められし上がる。

やがて先見的な舵取りで賭場を仕切り、パンデイー・ブアミリーとの熾烈な抗争をアル・カポネなき後のシカゴの大ボス、アイップの協力を得て制し、60年代にはシカゴ北地区全体を縄張りとするほどに。ラスベガスでもナイトクラブを経営するなど、日系人のドン「モンタナ・ジョー」の名は轟き、その人生に迫る映画も制作された。

聖職者の息子がギャングとは数奇な話だが、己の生き方を貫くという「血」は争えなかつたようだ。衛は神の恩寵を確信していたからこそ、日系人の厳しい現実や、去つていった息子のことを考えると祈らないではいられない。かつたのだろう。生き馬の目を抜く裏社会でジョーが奇跡的に命を奪われなかつたのは、もしかしたら父の祈りの恩寵なのかもしれない。

奮闘した2つの輝く星に、神戸の地より祈りを捧げたい。

※敬称略  
※兵庫県立神戸高等学校聯合会発行の「朋友」、村上早人著「モンタナ・ジョー」、マフィアのドンになつた日本人」「小学館」などを参考にしました。



衛藤衛(えとうまもる)

牧師

大分県生まれ。関西学院大学神学部卒業後、1917年、34歳で渡米し、牧師として永住を決意。1919年に長男・健が誕生するが、14歳のときに勤勉する。その後、父子は顔を合わせることなく過ごし、1992年に109歳で死去



衛藤健(えとうけん)

宣教師・衛藤衛の長男で、カリiforniア生まれ。1950年代、シカゴの日本人街にボーカー、ゲームの賭博場を開くと、モンタナ・マフィーを率い、マフィア間の抗争を経て勢力を拡大。日系人のドン「モンタナ・ジョー」として名を譽かせた。2004年にジョージア州で死去

写真／村上早人「モンタナ・ジョー マフィアのドンになった日本人」小学館、2004年